

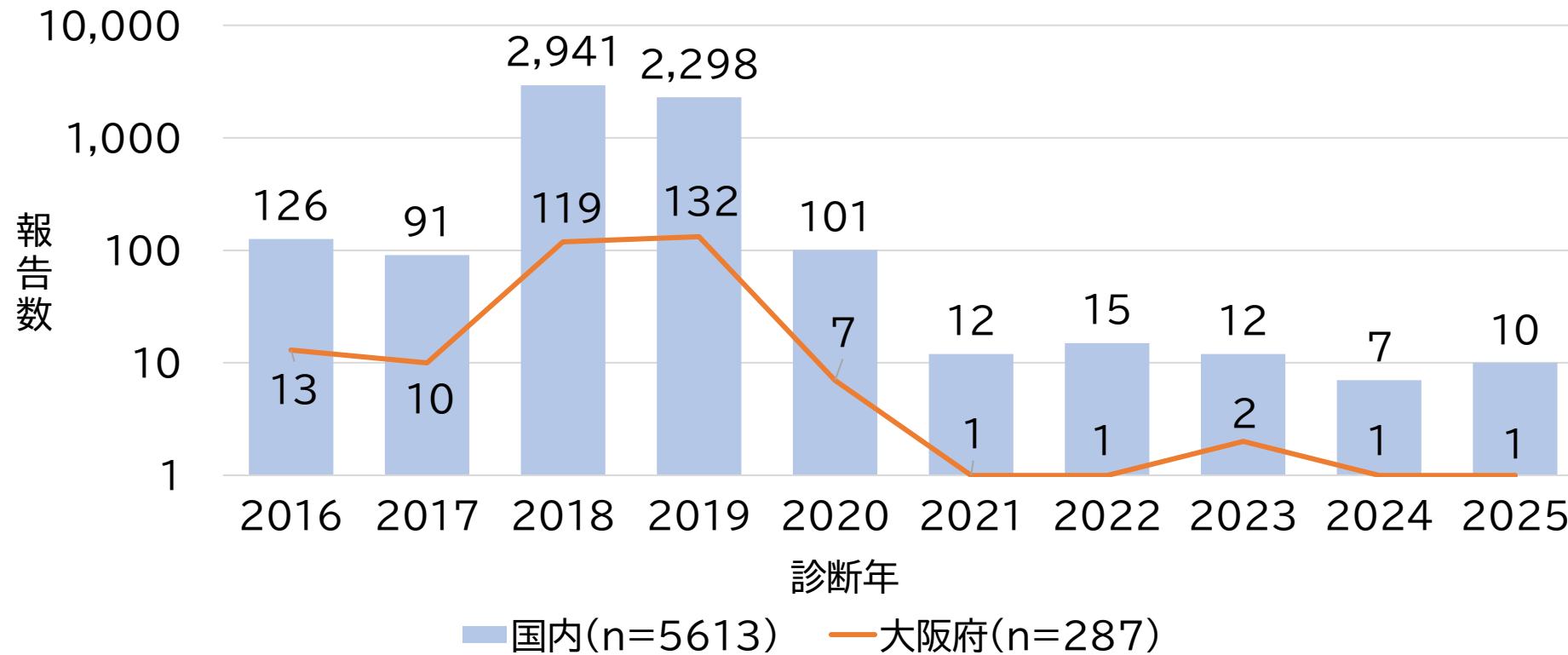
令和7年度大阪府感染症対策審議会
麻しん及び風しん対策部会

国内外の麻しん・風しん 発生状況について

大阪府 健康医療部 医療感染症対策課
感染症企画グループ

I . 風しんの発生動向

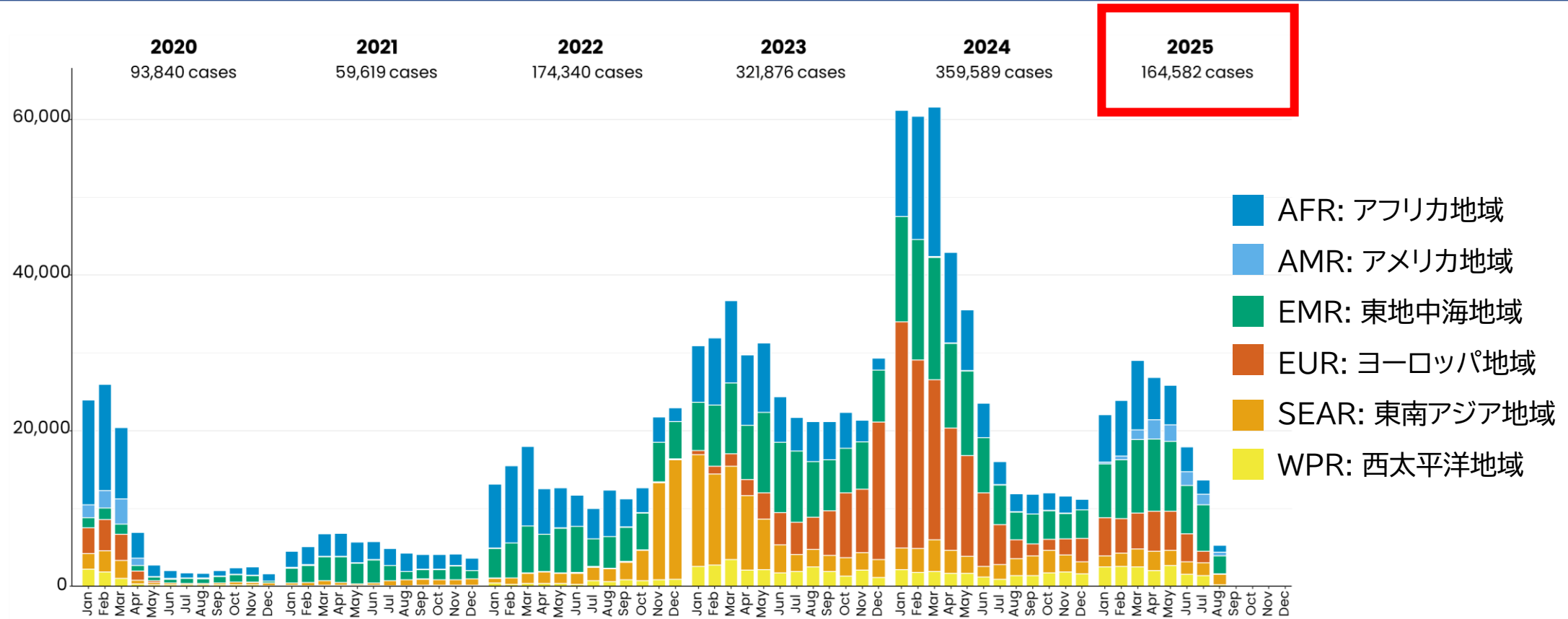
風しんの発生動向(国内・大阪府,2016～2025年(42週まで))



- 全数把握が始まった2008年以降について、全国・大阪府ともに2013年、2018～2019年に感染流行が確認された。
- 2025年については、大阪府内の報告数は1例のみで風しん流行は確認されていない。
- 2025年9月26日、世界保健機関西太平洋地域事務局により、日本の風しんの排除が認定された。

Ⅱ. 麻しんの発生動向

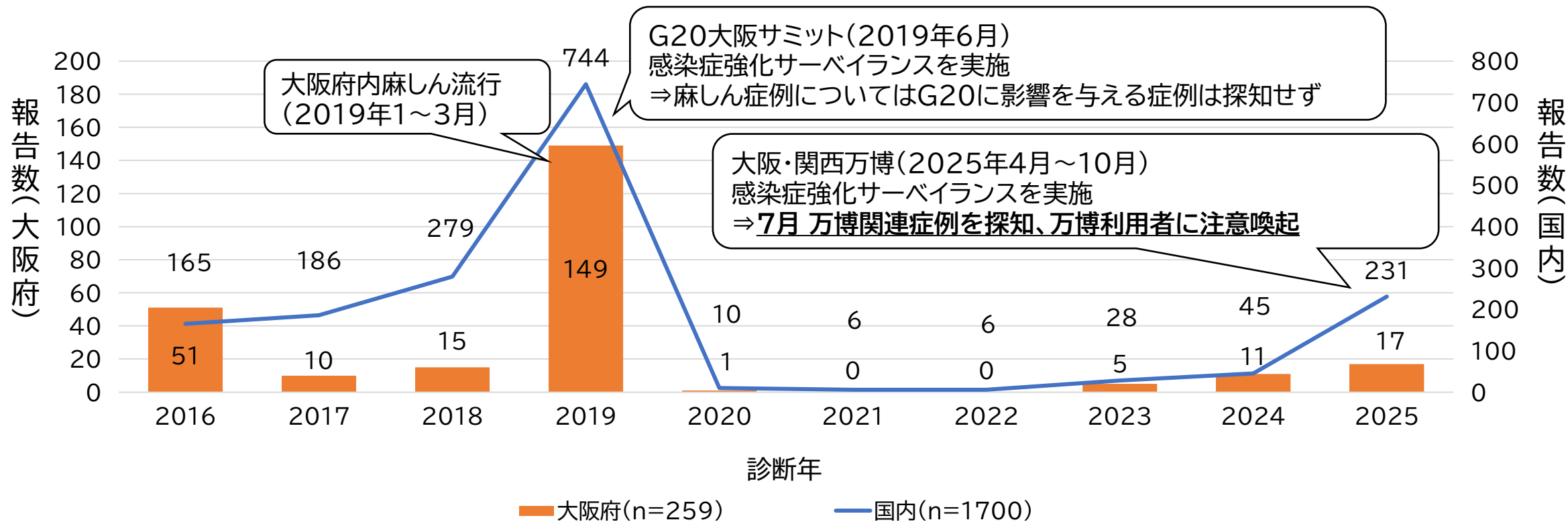
海外における麻疹の発生動向(2020～2025年(8月まで))



WHO 「Measles and Rubella Global Update September 2025」 より抜粋
(<https://immunizationdata.who.int/global?topic=Provisional-measles-and-rubella-data&location=>)

- 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、2020年4月以降の麻疹報告数は低下した。
- しかし、2022年以降報告数は増加し、2024年は35万症例以上確認された(2020年以降最多)。
- 2025年も冬から春にかけて報告数が増加した(新型コロナウイルス感染症流行前と同様の傾向)。

国内・大阪府内における麻しんの発生動向(2016～2025年(42週まで))



国立健康危機管理研究機構「感染症発生動向調査(IDWR)」よりデータ引用
(<https://id-info.jihs.go.jp/relevant/vaccine/measles/060/measlesdoko.html>)

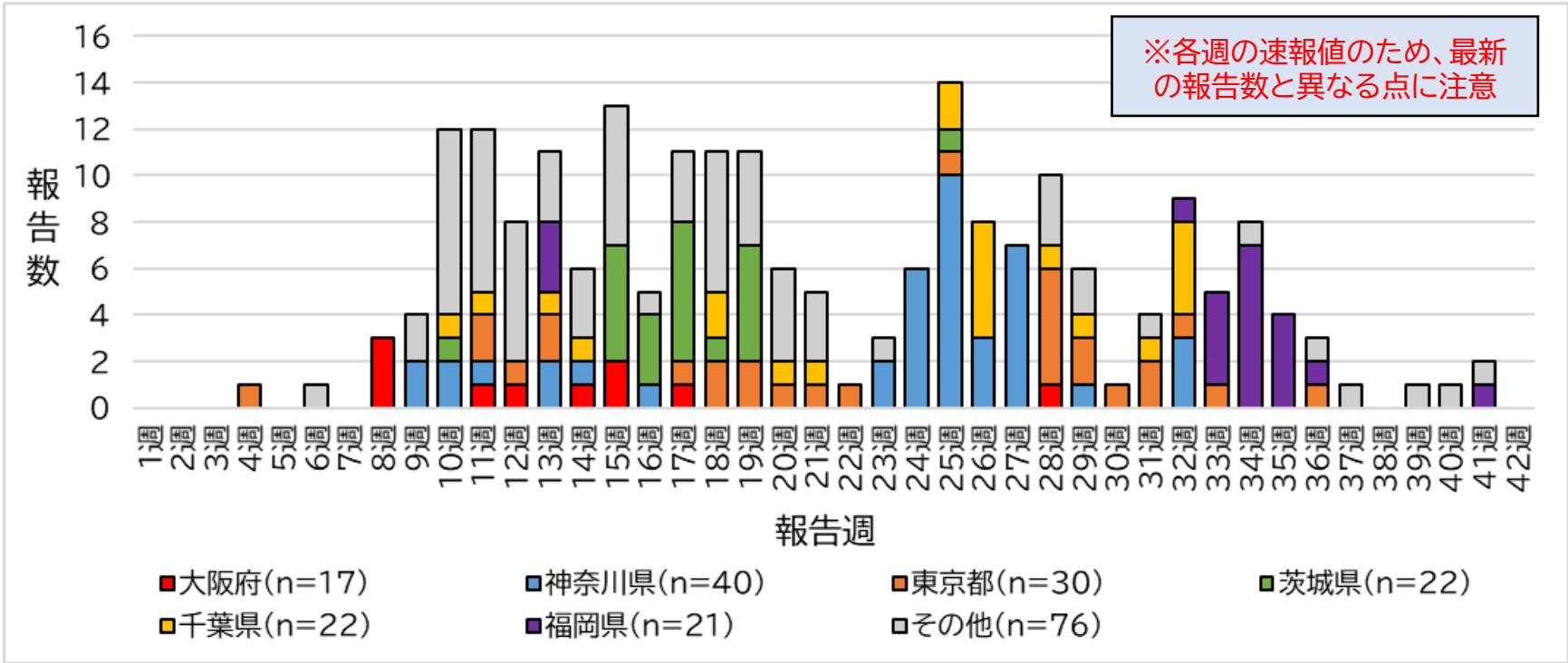
- ・ 国内外における人の往来制限(新型コロナウイルス感染症対策)に伴い、2020～2022年の国内・大阪府内の報告数は大きく減少した。
- ・ 2023年から年間報告数は増加し、直近数年間は増加傾向となっている。

都道府県別麻疹発生動向(2025年(42週まで))

都道府県別累積報告数(42週時点)

	降順	累積
1	神奈川県	40
2	東京都	30
3	茨城県	22
4	千葉県	22
5	福岡県	22
6	大阪府	17
7	兵庫県	13
8	愛知県	10
9	埼玉県	10
10	京都府	6

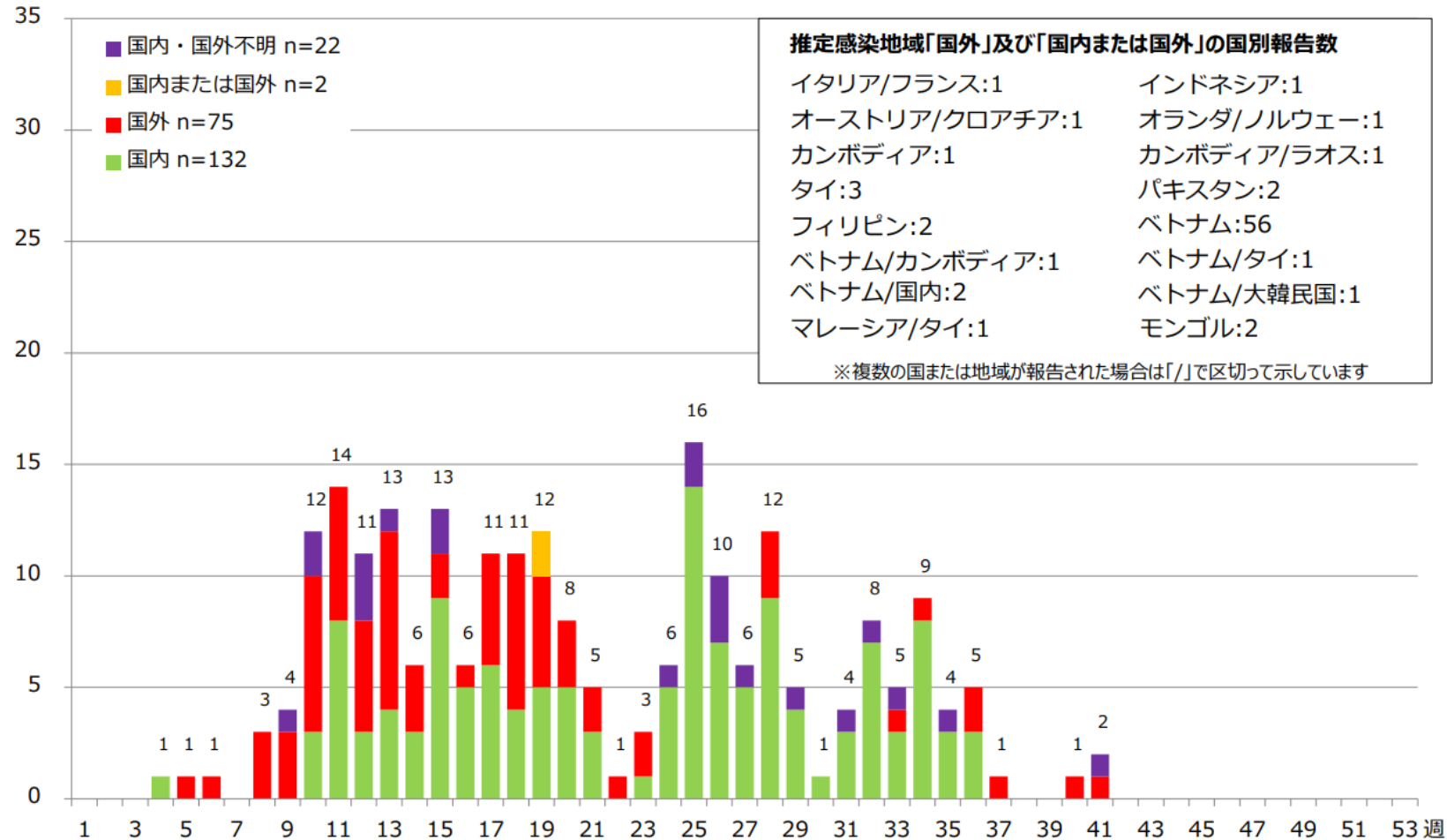
診断週別の麻疹報告数(速報値)(2025年1~42週, n=231)



国立健康危機管理研究機構「感染症発生動向調査(IDWR)」よりデータ引用
(<https://id-info.jihs.go.jp/relevant/vaccine/measles/060/measlesdoko.html>)

- 2025年の都道府県別年間報告数について、大阪府は6番目に多かった(第42週時点)。
- 一部の都道府県では一定期間内に麻疹症例が集積していた。

推定感染地域別の麻疹発生動向(2025年(42週まで))

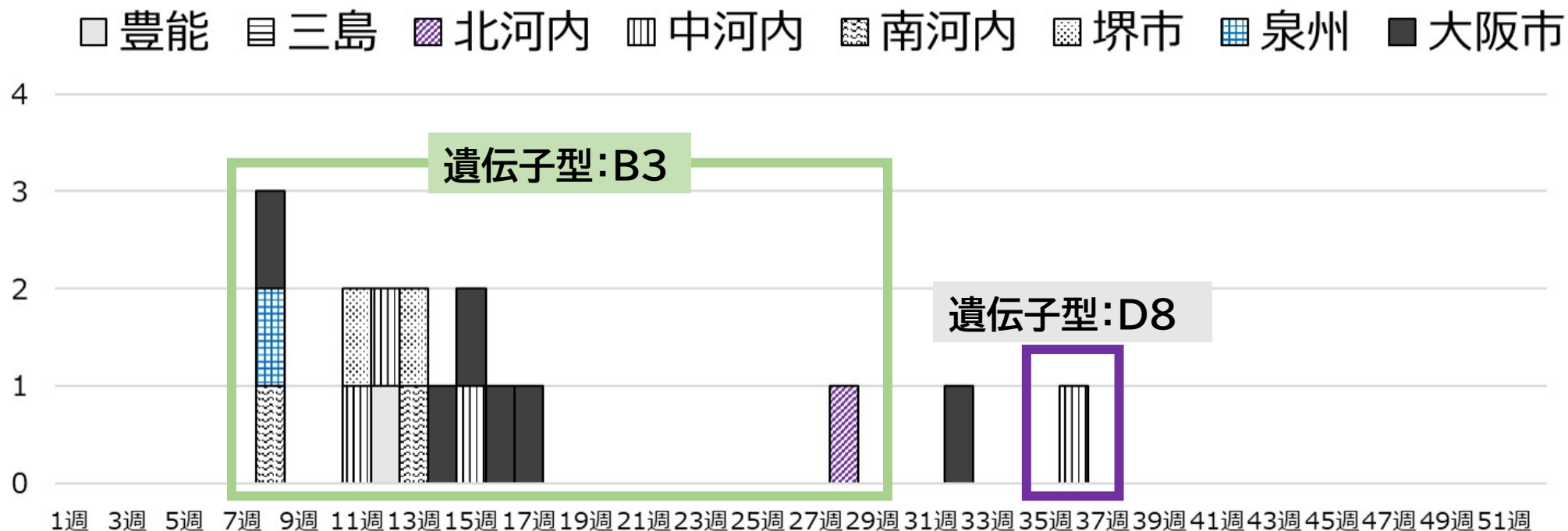


国立健康危機管理研究機構「感染症発生動向調査(IDWR)」より抜粋

(<https://id-info.jihs.go.jp/relevant/vaccine/measles/060/measlesdoko.html>)

- 半数以上は推定感染地域が国内と報告されていた(42週時点)。
- 1～21週(冬～春)に報告された症例は23週以降と比較して推定感染地域が国外である割合が高かった。

大阪府内の麻しん発生動向(2025年(42週まで))



大阪府感染症情報センター「麻しん」より抜粋
(<https://www.iph.pref.osaka.jp/zensu/20210128105027.html>)

- 大阪府では、2025年7週から18週までに麻しん症例が集積していた。
- 遺伝子型が判明した16症例のうち15症例(94%)がB3であった。

注) 遺伝子型は大阪健康安全基盤研究所、堺市衛生研究所で実施された検査結果に基づく
注) 型別PCRが陰性となった検体については遺伝子型は記載していない

麻しん発生動向のまとめ

- 2025年は、冬から春にかけての海外における麻しん流行に伴い、国内・大阪府内で麻しん報告数が増加した(8～18週)。
- 夏から秋にかけては、大阪府外の地域で国内感染例(推定)の集積が確認された(23週以降)。

【論点】

2025年上半期(特に春)の大阪府では、海外で感染したと推定される症例の増加が目立った。麻しん対策に資する情報として、以下の2点を委員にお伺いしたい。

- ① 海外における麻しん(遺伝子型B3・D8)発生動向
- ② 時期・季節別の邦人渡航者の特性(年齢層・渡航目的など)